

令和 6 年 1 2 月 2 0 日

伊那市長 白 鳥 孝 様
伊那市教育長 福 與 雅 寿 様

伊那市議会 総務文教委員会

宮 原 英 幸
吉 田 浩 之
篠 塚 みどり
田 畑 正 敏
白 鳥 敏 明
野 口 輝 雄
唐 澤 千 明

市内小中学校プールにおける水泳授業及び施設維持管理について
慎重な検討を求める提言

総務文教委員会では、所管事務調査として「市内小中学校のプールの現状と水泳授業の対応」について、県内 1 8 市の状況確認や先進地への行政視察をはじめ、各種調査研究をしてまいりました。これは、施設の老朽化への対応や急激に進むと思われる少子化を踏まえ、教員の負担が大きいとされる水泳授業への対応のあり方や、将来の利用に不安のある関連施設の整備は慎重に進めるべきではないかとの考えによるものです。

市内小中学校（2 1 校）のプールは建築以来 6 0 年を経過するものが半数以上に達しており、教育委員会ではプールの維持管理のあり方について検討がされています。また授業の方法についても、①自校方式、②集約方式、③共同利用方式の 3 つの選択肢を挙げ、既に今後の各校の移行スケジュールも検討されています。

そのような状況の中、プールに関しては、施設の設備の整備状況にもよりますが、修理等を除いても 1 校当たり現時点で平均年約 1 7 0 万円の運営・維持管理

費がかかる一方で使用期間が1か月程度であること、また中学校における水泳授業の実施について考える時期にあること、管理面を含む教員負担軽減策を具体的にどうするか等、多くの課題があることから、現在検討している移行スケジュールについては改めて慎重な検討をする必要があると考えます。

以上のことから、下記事項について適切な措置を講じられるよう提言します。

記

- 1 水泳授業の取組方針を示すこと。特に中学校におけるプールでの水泳実技授業の方向性について検討すること。
- 2 水泳授業用施設について、市民プールや民間施設の利用等を選択肢に入れ、更に今後市民プールの充実を図るよう具体的に検討すること。
- 3 水泳授業における教員の負担軽減について、専門指導員配置等の諸策を検討すること。
- 4 小中学校プールの新規整備・改修については、将来を見据えて慎重に検討すること。
- 5 使われなくなったプール施設の将来の処理方針を明確にすること。